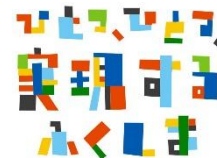


主要な農作物の生育情報

令和8年度 第4号
(令和8年7月14日現在)
福島県農林水産部農業振興課



【作物】

1 水稻（農業総合センターの作柄解析試験における6月30日現在の生育概況）

コシヒカリの生育調査では、平年に比べて、本部（郡山市）は草丈が平年並、茎数がやや多く、主稈葉数は0.2枚多く、葉色は濃くなっています（表1）。会津地域研究所（会津坂下町）は草丈が平年並、茎数が多く、主稈葉数は0.6枚少なく、葉色は平年並です。浜地域研究所（相馬市）は草丈が短く、茎数は平年並、主稈葉数は0.2枚少なく、葉色は濃くなっています。

表1 農業総合センターにおける水稻の生育状況

調査場所	品 種	移植期 (月. 日)	6月30日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (枚)	葉色 (SPAD502 値)
本 部	コシヒカリ	5.15	54.9 (104%)	676 (107%)	9.8 (+0.2)	41.6 (+5.1)
	ひとめぼれ	5.15	49.6 (96%)	709 (107%)	9.4 (-0.2)	42.9 (+4.0)
会津地域 研 究 所	コシヒカリ	5.20	57.2 (99%)	857 (117%)	9.6 (-0.6)	39.2 (-0.5)
	ひとめぼれ	5.20	55.6 (101%)	822 (111%)	9.5 (-0.6)	39.8 (-2.5)
浜 地 域 研 究 所	コシヒカリ	5.11	54.0 (88%)	734 (96%)	9.7 (-0.2)	41.6 (+3.8)
	ひとめぼれ	5.11	54.7 (89%)	788 (97%)	9.9 (-0.1)	44.3 (+2.7)

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 括弧内の数字は、会津地域研のコシヒカリでは前4年平均（2021, 2023～2025年）、それ以外では前5年平均（2021～2025年）との比較

2 斑点米カメムシ類

福島県病害虫防除所より令和8年7月13日付けで「令和8年度病害虫発生予察情報 注意報 第1号 (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/755254.pdf>)」が発表されました。県内全域で斑点米カメムシ類が発生しています。発生時期はやや早く、発生量はやや多い状況です。

注意報を参考に、除草作業や薬剤防除を適期に行いましょう。

3 大豆（農業総合センターの作柄解析試験における7月1日現在の生育概況）

標播、晩播ともに出芽は概ね良好です（表2）。

表2 農業総合センターにおける大豆の生育状況

調査場所	播種 時期	品 種	播種期 (月. 日)	出芽期 (月. 日)	出芽日数 (日)
本 部	標播	タチナガハ	6. 1 (－1)	6. 10 (－1)	9 (±0)
		里のほほえみ	6. 1 (－1)	6. 10 (－1)	9 (±0)
	晩播	タチナガハ	6. 19 (－1)	6. 26 (－2)	7 (－1)
		里のほほえみ	6. 19 (－1)	6. 26 (－1)	7 (±0)
会津地域 研 究 所	標播	あやこがね	6. 1 (±0)	6. 8 (－1)	7 (－2)
		里のほほえみ	6. 1 (±0)	6. 8 (－1)	7 (－2)
	晩播	あやこがね	6. 18 (－3)	6. 26 (－2)	8 (±0)
		里のほほえみ	6. 18 (－3)	6. 25 (－3)	7 (－1)
浜 地 域 研 究 所	標播	タチナガハ	6. 11 (+4)	6. 19 (+6)	8 (+2)
		里のほほえみ	6. 11 (+4)	6. 19 (+6)	8 (+2)
	晩播	タチナガハ	6. 25 (+2)	6. 30 (+1)	5 (－1)
		里のほほえみ	6. 25 (+2)	6. 30 (+1)	5 (－1)

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 括弧内の数字は、前5年平均(2021～2025年)との比較

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

県北・県中地方の5月上～中旬定植の雨よけ栽培は、主枝上段と側枝中段を収穫中で、6月中旬頃に1回目の収穫盛期を迎えています。6月中旬以降は、曇雨天の影響で草勢が低下しており果実の肥大が停滞していますが、高温による芯焼けや葉焼けは昨年よりも少なくなっています。

露地栽培では、5月中旬から下旬以降、順次定植が行われました。特に5月下旬頃の定植で、定植直後の低温や強風により活着が遅れて草勢が低下しました。6月も日照量が少なく経過したため生育がやや遅れていますが、雨よけ栽培等と同様に、芯焼けや葉焼けは昨年よりも少なくなっています。

病害虫は、雨よけ栽培では、べと病やハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類が平年並に発生しています。露地栽培では、低温と降雨のため、黒星病や斑点細菌病が平年より多く発生しています。また、べと病、うどんこ病、ウイルス病が発生しています。害虫はアブラムシ類が平年より多く、アザミウマ類、ハダニ類、コナジラミ類、ウリハムシ類、チョウ目害虫が平年並みに発生しています。

2 夏秋トマト

県南地方の4月中旬定植の作型では、8段目が開花しており、収穫は6月上旬から本格化しています。新品種の果実着色が従来品種よりも緩慢であるため、収穫始期は平年より1週間程度遅くなっています。南会津地方の5月下旬定植の作型では、気温が温暖に推移したため、生育は平年並みからやや早くなっており、収穫も平年よりやや早い7月上旬から開始しています。

病害虫は、県南地方では黄化葉巻病の発生が例年より早く、症状は軽度でしたが6月中旬から徐々に増加傾向となっています。南会津地方では、一部でかいよう病、アブラムシ類の発生が見られています。また、トマトキバガが昨年より早い時期から発生しています。

3 さやいんげん

県中地方の5月中旬定植の露地栽培では、生育は概ね平年並となっています。会津地方の露地防虫ネット栽培では5月中旬以降の定植で、一時的に低温による生理障害がみられ、平年並～やや遅れ気味の生育となっています。県全体で定植直後の高温・乾燥等により一時的に葉焼けが発生しましたが、昨年に比べて発生は少なく、花落ちの発生も同様に少なくなっています。

病害虫は、発生が少なく推移していましたが、地域によりアブラムシ類やアザミウマ類、ハダニ類等が例年同様に増加しつつあります。

4 夏秋ピーマン

県中地方のハウス栽培では、平年並みの5月下旬から収穫を開始しており、5～7番果を収穫しています。6月上～中旬にかけて尻腐れが発生していましたが、現在は落ち着いています。

トンネル栽培では、平年並の6月中旬から収穫が始まっており3～4番果を収穫中です。露地栽培は5月中旬から定植され、7月上旬から収穫が始まっています。

病害虫は、灰色かび病やアブラムシ類、ヨトウムシ類が平年並に発生しています。

【果 樹】（福島県農業総合センター果樹研究所における7月1日現在の生育概況）

1 もも

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が57.4 mm（平年比114%）、側径が60.1 mm（平年比121%）、「ゆうぞら」は縦径が52.1 mm（平年比108%）、側径が48.4 mm（平年比112%）と両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、両品種とも平年よりやや大きくなっています。

果樹研究所における、発育速度（DVR）モデルによる「あかつき」の発育予測について、気象庁の気象予報を用いた場合は、本年の収穫開始日は7月23日で平年より6日早く、収穫盛期日は7月26日で平年より6日早い見込みです。

2 なし

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が36.7 mm（平年比105%）、横径が45.8 mm（平年比110%）、「豊水」は縦径が38.8 mm（平年比106%）、横径が43.1 mm（平年比108%）と平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、両品種とも平年並です。

DVRモデルによる「幸水」の収穫盛期の予測は、8月21日ごろで平年より6日早い見込みです。

3 りんご

実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が57.3 mm（平年比110%）、横径が62.4 mm（平年比107%）、「ふじ」は縦径が49.6 mm（平年比107%）、横径が52.9 mm（平年比107%）と両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、両品種とも平年並です。

4 病害虫の発生

ナシ黒星病の発生は場割合が平年よりもやや高い状況です。また、リンゴ褐斑病の発生は平年並です。モモせん孔細菌病は、降水量が多くなると発病が急増するおそれがあるため、注意が必要です。梅雨期の管理について果樹情報等を発行して注意を喚起し、現地における耕種的防除や防除対策の徹底を図っています。

【花 き】

1 コギク

8月咲きの生育は、平年より草丈が高く、節数が多い状況となっています。品種発蕾が確認されている品種があります。

9月咲きは、定植後の高温・小雨の影響で、平年より草丈が低く、節数が少ない状況となっています。

病害は、斑点細菌病が中発生となっています。また、害虫では、アブラムシ類、アザミウマ類、ヨトウムシ類が小発生となっています。

2 リンドウ

生育は、早生種・中晩成種ともに、平年より草丈が高く、節数がやや多い状況となっています。

病害は、葉枯病の発生が下葉に認められるものの小発生となっています。また、害虫は、リンドウホソハマキが小発生、アザミウマ類が小～中発生となっています。

【飼料作物】

1 牧草

牧草は、1 番草において5月中旬から収穫作業が行われ、収量は例年並～平年以上の収量となっており、品質は良好な状態です。2 番草の生育は再生期から出穂期にあり、順調に生育しています。

2 飼料用トウモロコシ

飼料用トウモロコシは、順調に生育しています。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> 等を活用し、適切に対応しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiiku>